

このカレンダーの収益金は、NPO法人みんなの夢の音楽隊を通じて、アフガニスタンの子どもたちのために役立てられます。

Afghanistan Support Calendar 2007 جنتري دوستي افغانستان 2007

2007年版支援金確定 1,556,733円

製作3年目を迎えた2007年版アフガニスタンサポートカレンダーは、2007年1月末現在で、155万円を超える支援金になりました。3年間の総額も530万円になりました。すでに、アフガニスタンで活動する、MMCCをはじめ、ASCHIANA(路上で働く子どもたちのための職業訓練校)・JIFFメディカルセンター・チョロネプロジェクト(北部辺境州女子校建設)等のNGOに送金され、役立てられています。また、このカレンダーは、アフガニスタンでも関係者を通じて販売されており、「アフガニスタンだけをテーマにしたカレンダーとしては世界一の大きさと品質。」と各方面から太鼓判をいただきました♪

2006年版支援金送金 ¥2,093,645
2005年版支援金送金 ¥1,648,255
総額 ¥5,298,633



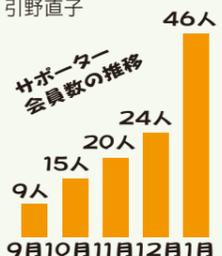
photography by MMCC International

サポーターを募集しています！

会費は1口300円/月です。全額がアフガニスタンMMCCに送金され、現地の活動に役立てられます。サポーターには、年4回、現地の様子を伝える「MMCCニュース」をお届けします。また、カレンダーやポストカードといったサポートグッズのご紹介や、関連イベントのご案内も一緒にお届けいたします。ニュースの発行や、送金手数料、郵送料は「みんなの夢の音楽隊」が負担しています。

2006年9月設立～2007年1月入会のサポーター♪

前田真吹	丸山和子	高橋直子	小野佳祐
櫻井千代子	矢野今日子	長谷川正躬	柴崎文恵
佐藤ともを	浅川恵美	逸見志保	神谷智子
今川綾子	足立浩恵	干場由香利	渡邊一
田中こずえ	今川久子	矢作剛	橋本喜典
橋本勇太	遠藤記央	野口美智子	横繁康子
今川夏如	中村和子	井上茜	粕谷雄三
長谷部雅美	伊藤加代子	吉川翔子	粕谷麻衣子
福田智美	今川茂	渡辺和美	福田光男
三好草平	上田敦子	引野直子	
池田きなり	渡辺一生		
石井みき	新井健治		
大金洋子	稲垣佳奈美		
金子穂子	加集希世子		



あなたもサポーターになりませんか！？

夢のような来日公演が終了しましたが、みんなの夢の音楽隊は、内部活動グループとしてのJAPAN-MMCCを継続し、これからもアフガニスタンの子どもたちとの交流や、活動の連携を続けていきます。新年になり、来日公演の報告書も完成しました。また、現地からのビデオレターが届き、少しずつ大人になった子どもたちの様子を知ることができました。アフガニスタンでは、去年は、来日メンバーを決める機会にもなった「ウィンタープログラム」が開講しています。普段は100人ちょっとのMMC Cもこのシーズンは300人以上にふくれあがり、18の教室はいっぱい。この冬、屋外にガラスハウスを建設し、冬の悪天候時でも活動のできる空間を作りました。さらに、センター入り口付近にも大きな建物を建設中です。ア

MMC Cニュース創刊号の配布先を紹介してください♪ 創刊号は、会員の方だけでなく広く一般のみなさまに読んでいただき、この活動を支える仲間をひとりでも多く増やしていきたいと考えています。ご親戚や、お友達に紹介したいという場合や、イベントで配布したいという場合でも、お気軽に事務局にお問い合わせください。

来日共同公演収支報告

収入 ¥17,563,543
支出 ¥17,915,868
差額 **-¥352,325**
※2007/1/20 現在

- 個人・団体協賛金
個人868人 61社・団体
合計 10,895口
カンパ 918,744円
総額 6,366,244円
- オリジナルグッズ販売
Tシャツ 2,278着
来日記念CD 400枚 経費を除く純収益
その他委託品 636点 2,200,600円
- 助成金
2006年度 子どもゆめ基金 329万円
ドゥコープ市民活動助成金 30万円
- 参加費・チケット収入
登録料・キャンプ・ワークショップ 1,122,700円
単独主催有料公演 1,083,409円
ブレ企画 282,700円

※内訳は主だったもののみ掲載しています。
※追加協賛金を受け付けています。どうぞご協力をお願いいたします。

アフガニスタンの治安状況は悪化の一途をたどり、雪解けが始まると、大規模な戦闘が頻発すると見られています。しかし、子どもたちの役割は、戦争に参加することではないですよね？戦争をやめさせることは大人たちの役目です。子どもたちは、将来の世界を楽しむものにするために、今を大切に楽しむことが仕事です。そして、その楽しさを、よりたくさん子どもたちと共有することが、彼らの役割です。そんな子どもたちをサポートすることが、MMCCをはじめ、みんなの夢の音楽隊の役目だと思います。今後とも、みなさまのご支援・ご協力・ご声援♪どうぞよろしく願いいたします。

NPO法人みんなの夢の音楽隊 会員募集中

NPO 法人みんなの夢の音楽隊は、会員の皆様の会費によって運営されています。私たちの活動に賛同し、協力して下さるメンバーを募集しています！

正会員	年会費 1口 10,000円	毎月1回ニュースをお届けします。活動を支えてください♪
賛助会員	年会費 1口 3,000円	毎月1回ニュースをお届けします。
団体賛助会員	年会費 1口 10,000円	共同企画事業を行います。会員割引の適用が受けられます。
MMCCサポーター	月会費 1口 寄付300円	年4回 MMCC ニュースをお届けします。※全額現地送金。
※メールアドレス	1アカウント 3,150円/年	

お問い合わせ TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772 info@yumeuta.com
郵便振替 00160-8-352345 特定非営利活動法人みんなの夢の音楽隊

MMCCニュースに関する感想・アイデア・ご意見をお寄せください。お待ちしております。



特定非営利活動法人 みんなの夢の音楽隊
〒330-0053 さいたま市浦和区前地 2-11-2
TEL 048-783-5771 FAX 048-783-5772
発行人 JAPAN-MMCC 代表：今川夏如
年4回発行(2月5月8月11月)

Afghanistan Mobile Mini Circus for Children

2007年2月15日(創刊号)

あなたが支える子どもから、子どもたちへ“夢”と“笑い”と“教育”を届ける！



来日公演大成功！ 凱旋帰国！！！！

2006年9月11日成田

アフガニスタンからやってきた子どもたちは、ホントに帰って行ってしまいました。静かになったベースキャンプは怖いくらいに寂しいのです。風で戸がガタガタとなると、子どもたちが戻ってきたんじゃないかと思ってしまう。夢を見ていたんじゃないかなって思うこの50日間。だけど、そのために頑張ってきたこの1年半。日本の子どもたちにとっても、アフガニスタンの子どもたちにとっても、夢のような企画が、大成功の内に終了しました。がんばれば夢は実現させることができる。これは、私たちがアフガニスタンの子どもたちから学び、日本で実証できたことです。ひとりひとりが夢をあきらめずに生きていける世界を一緒に創っていきましょう♪なにかの終わりじゃなくて、やっぱり始まりになった気がします。また会いにおいで。また会いに行くから。

紛争の続く母国、 アフガニスタンへ。

帰国の日、来日共同公演をともに達成した仲間たち、子どもたちやスタッフ、一緒に出演した親たち、総勢50人が成田空港で最後の別れを惜しんでいました。平日にもかかわらず、子どもたちは学校に公欠願いを出し、きちんと休みをもらって、遠くアフガニスタンに帰るトモダチのために成田空港までやってきた。なかには校長先生に直談判した小学生もいるとか。このトモダチが帰る先では、まだ紛争が続いています。子どもたちも親たちも、「また会おうね。」「いつかアフガニスタンに行くからね。」と口々に。「いつか」は、「今はまだ行けない。」という意味なんですね。治安状況は悪化の一途をたどり、彼らの来日直前には、危険レベルがさらに引き上げられたばかりでした。しかし子どもたちには紛争とは無縁であってほしい。大人たちの都合で、子どもたちの未来を奪ってはいけません。そんな思いを新たにしていました。



別れを惜しむアフガニスタンの子どもたち



最後まで手を振り続けた日本の子どもたち

ジャパントアラーは、 奇跡の連続だった！

MMCCとして2度目の海外公演だったジャパントアラーは、1度目のヨーロッパツアーの前に企画されていた。もし、その後だったら、私たちは行く気にならなかっただろう。ヨーロッパ中をバスで駆けめぐり、何度もバスの中で寝た。6時間もかけて移動した先で、すぐにパフォーマンスをし、地元の子供たちにジャグリングを教えたりした。この子たちは10歳前後の子供だ。そんなのは疲れてしまう。料理も地元の料理ばかりで、宗教的にも味付けも、子どもたちには食べることができないものばかりだった。疲れ切ったMMC Cのスタッフは、キッチンを借りては自分たちで料理を作ったりもした。どこへ行っても知らない人ばかり。子どもたちは毎日のように母国の親たちに電話をしたがっていた。

だけどジャパントアラーは全然違う。ミラクルの連続だ。アフガニスタンの料理が毎日食べられた。残念だけど、やっぱり日本食は口に合わなかったみたいだね。一軒家をまるごと自分たちの自由に使うことができたし、毎日同じところに帰ってこれる安心感があった。何度もアフガニスタンと一緒に遊んだり練習したりした若いスタッフがいつも一緒にいてくれて、せっかく母国の両親と電話ができて知人宅で見せてもらっていたドラマの続きを尋ねたりする。全然寂しくなんか無かったみたいだ。日本の子どもたちとあんなに仲良くなって、びっくりしたよ。帰るころには日本の礼儀や習慣まで気を遣っていた。それは、日本や日本の友だちを好きになった証拠なんだ。正直、これだけの経験をした子どもたちは、アフガニスタンにはほかにいないだろう。彼らにとっても一生の思い出だよ。ありがとう。いつか、みんなアフガニスタンまで会いに来て欲しい。

現地最高責任者 デイビット=メイスン



カブールの空港で出迎いの歓迎を受ける
アンソル・ルナ・サミラ

広がる！ふくらむ！ カブールチルドレン カルチャーセンター



▲新しく建設されたガラスハウス外観

アフガニスタンの首都、カブールには、子どもたちによる子どもたちのための教育の基盤となる、チルドレンカルチャーセンターがあります。2003年11月から運営を開始し、その後敷地や教室を拡張していきました。この冬、あらたに2つの大きな建物を造りました。どれもスタッフも参加しての手作り。レンガや資材運びを子どもたちも喜んで手伝ってくれます。それが自分たちのためのものだと知っている

からですね。1つはガラスハウス。全面が透明なパネルで覆われていて、主にジャグリングの練習を行います。常に100人以上の子どもたちがいるMMCCでは、一度に全員が練習をすることはできないので、それぞれの練習の様子を見えるようにして、お互いに向上心を高めあうのが目的です。また、悪天候時でもプログラムが実施できます。もう一つはまだ建設途中ですが、小型の体育館です。内部は100㎡以上あり、高さは5m。日本では、とても体育館とは言えない大きさですが、ここでは画期的な大きさ。また、子どもたちのためだけに造られるものとしては他に例がありません。子どもたちのアクロパティックな体操の練習や、普通の高さの天井ではできない組



▲ガラスハウス内部でジャグリングの練習

ハンディキャップ プログラム 国際障がい者の日 記念式典に出演！

2006年12月3日、カブールでUNDP(国連開発計画)の主催で開催された国際障害者の日を祝う記念式典にMMCCの子どもたちが出演しました。(日本では12月3日～9日が国際障がい者週間)

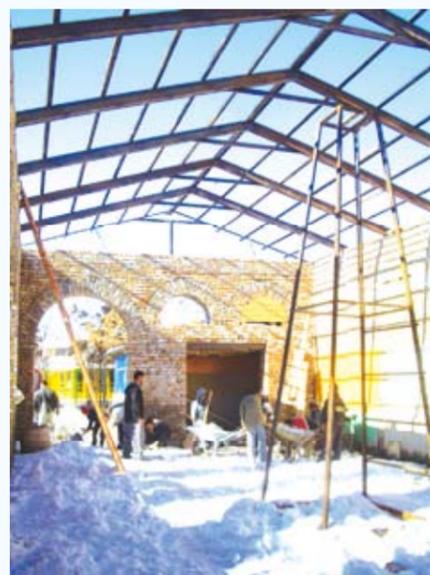


▲開会式で歌を歌う女の子たち。



▼義足の少年らによるパフォーマンス

アフガニスタンには、様々な理由で障がいを抱えた子どもたちや大人たちがたくさんいます。その多くは地雷によって足を失った人々です。また、病気や、原因不明の奇病もあります。劣化ウラン弾や枯れ葉剤とみられる薬品など、被害者だけでは因果関係の証明が難しい健康被害も多数存在しています。しかし、たとえ身体に障がいがあっても、このアフガニスタンで生きていかなければならないのです。まだ、政府機関や国際機関、NGO等によるサポートも十分とはいえません。もちろん、障がい者を対象にしたプログラム



▲建設中のジムナスティックホール

み体操の練習に使用します。この施設を利用してトレーニングを積んだ子どもたちは、カブール州や他の地域の子どもたちにも、自らのパフォーマンスを通じて、大きな自信と夢と希望を届けることができます。自分が得たものを、他の人々に還元しようという意識は、子どもの頃から培い、助け合って生きていくことが大切です。



▲他のNGOの運営する義足工場▼

を実践している組織はたくさんあります。しかし、MMCCでは、障がい者も健常者も基本的に同じプログラムを行います。障がいのあるなしで区別するのではなく、助け合えば一緒に生きていくことができる。そういう意識を、子どもも大人も実感しあえるプログラムを目指しています。



バーミヤンに 子どもの城を 築こう!!!

来日メンバー13人が日本に来ているとき、アフガニスタンに残った他の100人以上の子どもたちや、スタッフたちは何をしていたんだろう!?

MMCCは、2005年から、バーミヤン州にも子どもたちの文化活動を通じた教育の拠点作りを進めています。バーミヤン州にも、各国のNGOや政



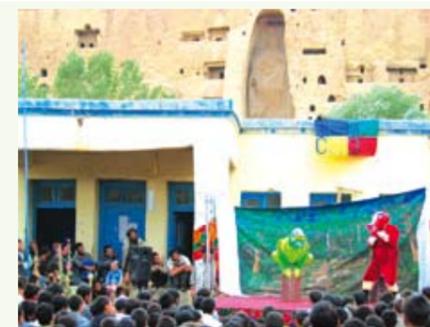
▲ワークショップに参加する子どもたち

ウィンター プログラム 2007

例年、公立学校が冬の休みに入る時期に合わせて、ウィンタープログラムが実施されます。MMCCに所属する120人ほどの子どもたちに加えて、同じ地区でフランスのNGOが運営する孤児院の子どもたち約230人が参加しています。学校が休みの期間になると、



▲読み書き算数など基本学習



▲まずはパフォーマンスを観て、考える。これは、民族の違いを認め合う演劇。

府機関も含め様々なプログラムが実施されています。しかし、教育の質の向上は最大の課題とされ、教科書を読むことしかできない先生がほとんどという実態にどこも頭を抱えていたのです。しかし、そのことはあまり外には報じられず、有名で大きな組織でさえも、この悩みを抱えていました。複数のNGOからの要請もあり、バーミヤンでMMCCのワークショップやティーチャートレーニングを実施しました。また、カブールのカルチャーセンターで学び、演劇や歌などを通じて教育を届ける担い手となっている子どもたちは、バーミヤン州からの国内避

▼昨年はJAPAN-MMCCの3人も参加



行き場が無くなってしまいます。また、長期間教育現場から離れてしまうことは、子どもたちの学習意欲を損ない、将来の可能性を失わせることになりかねません。



▲義足の少年も同じプログラムに参加



▲最後は実践。自分たちだけでも、助け合えば何でもできる♪

難民が大半を占めていました。紛争で空き家になった建物や、空いている土地に勝手に住み着いて生活をしている彼らにとって、地主や政府の開発事業によって立ち退きを迫られる場合があり、いつかはバーミヤンに帰らざるを得ないのです。MMCCにとっても地元にとってもバーミヤンカルチャーセンターの建設は急務です。現地調査も含め、年数回のワークショップを行っています。

ねません。

ウィンタープログラムでは、基本的な情操教育から、歌や音楽、手芸や料理、絵画、木工、サーカスジャグリング、ジャーナリズム、インターネットなど、幅広く選択できるクラスがあり、雪解けのシーズンには、それぞれのクラスごとに発表会を行います。また、その発表会に、地域に住む大人たちや、政府関係者、学校の先生などを招待し、孤児院の子どもたちと地域の人々との交流も大切にしています。



▲育ち盛りの子どもに十分とはいえませんが昼食の支給もしています

MMCCってなに?初めて聞いたよ?なにをやってるの?という方へ♪

日本のみなさん!初めまして!アフガニスタンMMCCです。わたしたちはアフガニスタンで設立されたNGOなので、海外に母体を持っていません。しかし、最初にいたメンバーのなかで、デンマーク人と日本人がいました。その後不思議な縁で、日本にたくさんのトモダチができました♪このニュースは、そんな日本にいるトモダチが私たちの活動を紹介するために創ってくれたものです。せっかく読んでいただ

いているので、少しでも私たちの活動を知ってもらい、もし、気に入ってくれたら私たちの活動を支えるサポーターになってくれないか?ニュースを読んでもわからないこととか、もっと知りたいことがあったら、日本にいるトモダチになんでも聞いてください。遠いところにいるけど、私たちはいつも一緒に活動しています!!!アフガニスタンでは大きく次の4つのプログラムを行っています♪

移動サーカス(モバイルサーカス)

アフガニスタンの地方の村々を回り、教育的な内容のパフォーマンスを行い、字が読めない子どもたちにも、平和教育、衛生教育、地雷回避教育といった生活に必要な知識を伝えています。※写真は「手を洗おう!」



チルドレン・カルチャーセンター

15の教室を持ち、歌や絵画、サーカス、演劇、アクロバット、格闘技、英語、コーラン、手芸、工芸、文学などのクラスがある。それぞれのクラスで様々な知識や技を身につけ、自身の可能性をのばせるような様々な工夫がなされています。広い中庭では子ども達が自由に遊び回り、たいたりどなったりする大人はいません。自由な空間は子ども達の創造性を高め、将来の可能性を広げていきます。

ワークショップ 実践! 実感! 実現!

実際に子どもたちの手で何かを創りあげる作業。人形劇や組体操など、かならずひとりではできない、みんなで協力し、助け合わなければならないことをやってみる。社会の中の役割を実感し、異なる部族同士でも助け合うことの大切さを学んでいます。

ティーチャートレーニング(教師養成)

長い戦争で教育インフラの85%が破壊されました。現在も、専門的な技術をもたず教科書をただ読んでいるだけの教師も多いのです。子どもを叩いたり、罵ったりすることも多く、教師の質が大きな問題になっています。子どもの興味を引き出したりオリジナルの教材作りは、MMCCの最も得意とする分野です。各地の教育委員会などで行っています。

